

群 教 七	G09 - 02
	平15.214集

英語で自分の考えを伝えようとする態度を 育成するための指導の工夫 —ディベート的活動を取り入れて—

特別研修員 奥村 隆（藤岡市立北中学校）

I 主題設定の理由

国際社会と言われて久しく、インターネットをはじめとするメディアが普及し、ますます世界との距離が短くなってきている。海外と交信する方法として電子メールが一般的になりつつある現状の中で、英語を介して、自分を表現したり、他を理解したりする力がこれからの日本人にさらに求められていくと予想される。このような現実を考えると、学校における英語教育において、英語で自分の考えを伝えようとする態度を身に付けることはとても大切なことである。

本年度より本校では、基礎学力の定着と豊かな表現力の育成をねらい、3年生の英語の授業に基礎コースと発展コースの2コースを開設し、習熟度別少人数制の授業をスタートさせた。発展コースの生徒の英語運用能力の実態をみると、聞く・読む・話す・書くの4技能ともに高く、英語に親しもうとする気持ちも強い。しかし、アンケートによると、基本文を活用して日本語を英語に置き換えることはできるが、自分の考えをまとめた英文で書けるようになりたいと多くの生徒が考えていることがわかった。この要因として、「書く力」を身に付ける授業において、文法的な正確さを重視した和文英訳のものが多く、意味のある英文を書く指導が十分でなかったことが考えられる。発展コースの生徒の高い能力や意欲を生かしながら、自分の言いたいことを表現する活動が自然な状態で行われるような手だてを工夫する必要がある。

そこで本研究では、書く力を高め、自分の考えを相手にわかりやすく伝えようとする態度を育てるためにディベート的活動を取り入れる。ディベート的活動とは、書くことを通して、相手の考えを理解しながら、自分の考えを明確にしていく活動である。ゲーム性やコミュニケーションの必然性を含んでいる活動に取り組み、言いたいことをまとめた英文で表現できれば、生徒は、成就感をもち、英語で自分の考えを伝えようとする態度が育成されるものと考えられる。

具体的な取組として、導入の過程では、身近なテーマについて、日本語で肯定側、否定側の意見を出し合い、それらをクラス全体で英語に直す活動を行う。その活動を通して、英語の基本的な語順や英語らしい表現の仕方に慣れる。応用の過程では、導入の過程とは異なるテーマを取り上げ、肯定側と否定側のグループに分かれ、自分の立場を立論する英文を作成する活動を行う。まとめの過程では、互いの立場で立論した英文を交換し合い、相手の主張を理解した上で、相手の主張に反論する英文を作成する活動を行う。なお、ディベート的活動の中で、自分の考えを主張する英文を作成する際には、「ワークシート」や「英語基本表現集」を活用する。

以上のような実践によって、生徒はまとめた英文を書くことに興味をもちながら、英語で自分の考えを伝えようとする態度を身に付けることができるものと考え、本題材を設定した。

II 研究のねらい

「英語で書くこと」に重点を置いた実践的なコミュニケーション活動として、ディベート的活動を取り入れることにより、英語で自分の考えを伝えようとする態度が身に付くことを明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 導入の過程において、身近なテーマを取り上げ、肯定側、否定側のそれぞれの意見を出し合い、それらを英語に直していくディベート的活動を行えば、英語の基本的な語順や英語らしい表現方法に慣れ、自分の考えを英語で表現しようとすることに興味をもつであろう。
- 2 応用の過程において、導入の過程とは異なる身近なテーマを取り上げ、グループで互いの立場から立論するディベート的活動を行えば、わかりやすい英文を作るために工夫し、自分の考えを伝えようとすることに意欲的になるであろう。
- 3 まとめの過程において、自分の立場の主張を確かなものにするため、グループで相手に反論するディベート的活動を行えば、書く活動を通して、英語でコミュニケーションができることに成就感をもち、自分の考えを伝えようとする態度が育成されるであろう。

Ⅳ 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 本研究における英語で自分の考えを伝えようとする態度について

「英語で自分の考えを伝えようとする態度」とは、学習した言語材料を使用して、身近なテーマについて、書く活動を通して、自分の考えをわかりやすく筋道を立てて述べようとする態度、また、相手の考えを理解した上で、説得力のある英文を作成しようとする態度ととらえる。導入の過程では、英語の基本的な語順や今まで学習した言語材料や慣用句を積極的に使用しながら、相手の考えに対応する英文を書くことに慣れ、自分の考えを相手の考えに対応して伝えることの大切さを確認していく。応用の過程では、自分の立場の優位性について、具体的な例や補足説明を加えながら、その根拠をわかりやすい英文で書こうとする意欲的な態度を身に付けていく。まとめの過程では、相手の考えを理解したり、予想したりし、それに反論しながら、説得力のある英文を作成しようとする態度を身に付ける活動を行う。

(2) ディベート的活動について

ア ディベート的活動を取り入れた理由

ディベートとは、ある一つのテーマについて、肯定側と否定側に分かれて、定められたルールに従って意見交換をし、最後に判定によって勝敗が下される活動である。ディベートによって、筋道を立てて物事を考える力や自分の意見を効果的に人に伝えようとする力、さらに、相手の意見を受けてから自分の考えを伝えようとする力が身に付くと考えられている。ディベート的活動とは、これらのディベートのもつ有効性を取り入れた、書くことに重点を置いた活動である。こうした活動を通して、英語で自分の考えを伝えようとする態度を身に付けられるものと考え。

イ 具体的な活動内容及び方法

- ① 肯定側、否定側のそれぞれの意見を出し合い、それらを英語に直すディベート的活動
身近なテーマについて、肯定側と否定側の二つのペアになり、日本語で意見を出し合う。それらをJTEが黒板を半分に分け、肯定の意見は左側から、否定の意見は右側から板書していく。そして、ALTと協力し、クラス全体で話し合いながら、英語に直していく。反論の活動では、板書された英文を参考にしながら、再びペアになり、手紙のやりとりのように、紙上で相手の考えに反論する活動を行う。
- ② 互いの立場から立論するディベート的活動
3、4人のグループ構成をし、肯定側と否定側に分ける。肯定、否定の立場は、ジャンケン

で決める。グループの一人一人が根拠を挙げながら、自分の立場の立論の英文を作成する。次に、個人が作成した英文を持ち寄り、グループ内で同じような根拠をまとめながら、グループとしてのわかりやすい立論の英文を完成させる活動を行う。

③ 相手に反論するディベート的活動

肯定側と否定側とで互いに考えたグループの立論を交換する。ただし、交換する互いの立論には四つの根拠が記述されるが、その一つは相手に知らせないものとする。その理由として、この活動を相手の考えを予想して相手の意見に反論するという本来のディベートに近づけ、将来、本格的なディベートを行うための予備知識として役立てたいからである。互いに交換した立論の英文を理解し、グループの一人一人が反論の英文を作成する。また、知らされていない相手の根拠を予想し、それに対する反論を考えて、英文を書いていく。次に、個人が作成した反論の英文を持ち寄り、グループ内で話し合い、相手の立論に対して説得力のある反論の英文を完成させる活動を行う。

以上、三つの過程の活動を通して、生徒は、英語で自分の考えを伝えようとする態度が身に付くであろうと考える。

(3) ワークシートの活用について

ワークシートの種類	使用時	用途
ワークシート①	導入の過程 (反論の練習を行う時に使用)	「中学校は楽しいか」のテーマについて、互いの意見に反論するような英文を書くためのものである。自分の意見を書いたら相手に渡し、相手が書いたら自分に返す。それを繰り返してできるだけ、反論を続けるようにするものとする。
ワークシート②	応用の過程 (個人が立論の英文を作成する時に使用)	「進学するなら、公立高校か私立高校か」のテーマについて、個人で自分の立場を主張するための根拠を4つ記述するためのものである。根拠の記述の順番は、上(一番目の根拠)から主張の強いものとする。
ワークシート③	応用の過程 (グループが立論の英文を作成する時に使用)	それぞれの立場で個人が書いた英文を持ち寄り、話し合いにより、まとめたグループの立論の英文を記述するためのものである。また、交換時には、互いの四番目の根拠を隠すものとする。
ワークシート④	まとめの過程 (個人が反論の英文を作成する時に使用)	互いの立論を交換した後、それを見ながら、個人で相手の主張を理解したり、予想したりして、相手への反論を記述するためのものである。
ワークシート⑤	まとめの過程 (グループが反論の英文を作成する時に使用)	個人が書いた反論の英文を持ち寄り、話し合いにより、まとめたグループの反論の英文と個人が相手の根拠を予想して書いた反論の英文を記述するためのものである。

(4) 英語基本表現集について

英語基本表現集は、「ディベート的活動で使用する表現例」、「基本文例」、「便利な単語、熟語」から構成されている。「ディベート的活動で使用する表現例」には、自分の意見を言うときの表現、資料を引用するときの表現、反論するときの切り出す言い方や結論を述べるときに必要な表現等がまとめられている。「基本文例」には、既習言語材料で、本活動に必要なと思われる表現がまとめられている。「便利な単語、熟語」には、使用すると予想される単語や熟語、英語で表現することが難しい時の言い回しや会話をつなぐ表現例がまとめられている。生徒は、この英語基本表現集を参考にしながら、それぞれの英文を作成していく。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

期間	平成15年10月下旬～11月上旬	教科	外国語(英語)
対象	藤岡市立北中学校3年5組 男子10名 女子12名 計22名(チャレンジコース)		
題材名	ディベート的活動をしよう	時間	7時間

(2) 抽出生徒について

A子	正しい英文を書くための語彙や文法事項に対する知識や理解は高く、和文英訳等の課題には意欲的に取り組むが、英語で表現することに消極的なところに課題がある。英語で表現する楽しさを味わわせるためにグループの中での対話に積極的に参加するように助言し、自分の作った英文に自信がもてるように支援したい。
B男	英語でのコミュニケーション活動には関心があり、表現の置き換え等による相手との対話活動には積極的に取り組む。しかし、自分で文を考え、それを書いたり、相手の考えを読みとったりする意欲に課題がある。学習した単語や文法の活用の仕方などについて助言し、英語の語順や英語らしい表現方法を理解させ、自分の考えを英語で積極的に表現できるように支援したい。

(3) 検証計画

	検証内容	検証の方法
見通し1	導入の過程において、「中学校は楽しいか」というテーマにしたがって、肯定と否定に立って意見を出し合い、それを英語に直す活動を取り入れるは、英語の基本的な語順や英語らしい表現方法に慣れ、自分の考えを英語で表現しようとすることに興味をもつことに有効であったか。	・観察 ・ワークシート① ・自己評価カード
見通し2	応用の過程において、「進学するなら公立高校か、私立高校か」というテーマを取り上げて、個人で自分の立場の主張の英文を書き、それらの英文をグループ内で話し合い、よりよい英文にまとめる活動を取り入れることは、わかりやすい英文を作るために工夫し、自分の考えを伝えようとするに意欲的になることに有効であったか。	・観察 ・ワークシート②③ ・自己評価カード
見通し3	まとめの過程において、相手の立場の主張を理解したり、予想したりして、個人で反論の英文を書き、それをグループ内で話し合い、説得力のある英文にまとめる活動を取り入れることは、英語でコミュニケーションができることに成就感をもたせ、自分の考えを伝えようとする態度を育成することに有効であったか。	・観察 ・ワークシート④⑤ ・自己評価カード

V 研究の展開

1 題材の考察と目標

題材の考察	生徒は、以前、教科書を通して家庭での仕事分担について自分の考えを述べるスピーチ原稿を英文で書いて、発表をするという活動を行っている。本題材では、この活動をさらに発展させ、相手の意見を受けて、自分の考えを英文で書くディベート的活動を行う。そこで、導入の過程においては、家庭生活と同様に身近で意見が出しやすいという視点から、学校生活について「中学校は楽しいか」のテーマとした。また、応用の過程とまとめの過程においては、中学3年のこの時期に関心が高いと思われる進路に関する「進学するなら、公立高校か、私立高校か」をテーマとした。生徒は、進路学習や「総合的な学習の時間」の中で、自分の進路設計を立てており、自分の課題として関心をもって取り組むと考えたからである。なお、ディベートのテーマを設定する際、生徒が、学習した言語材料を活用して英語で表現可能かどうかを十分吟味するようにする。
目標	ディベート的活動に段階的に取り組むことにより、英語で意見を交換することに成就感をもち、根拠をもって自分の考えを伝えようとするができる。

2 評価規準

	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
コミュニケーションへの意欲・関心・態度	身近なテーマについて、英語基本表現集を活用しながら、簡単な英語を使って、意見交換をしている。	身近なテーマについて、わかりやすい英語を使って、臆せず意見交換をしている。
表現の能力	身近なテーマにしたがって、自分の立場の主張を英語基本表現集やグループの考えを参考にしながら、書くことができる。	身近なテーマにしたがって、自分の立場の主張をその根拠となる事項を具体的な例を提示しながらわかりやすい表現方法で書くことができる。
理解の能力	相手の主張を読んだり、予想しながらどんなことを言っているのかをグループの考えを参考にしながら理解できる。	相手の主張を積極的に読んだり、予想しながら、どんなことを言おうとしているのかを理解できる。

言語や文化についての知識・理解	身近なテーマについて、調べたり、考えたりして、英語基本表現集を活用し自分の立場や相手への反論をする際の表現方法を理解している。	身近なテーマについて、積極的に、調べたり、考えたりして、自分の立場の主張や相手への反論をする際の英語らしい表現方法を理解している。
-----------------	---	---

3 指導計画

過程	時間	学習活動（見通し）	支援及び指導上の留意点	評価項目
導入	1	<ul style="list-style-type: none"> 「ディベート的活動をしよう」という学習の目的、内容を把握し、見通しを立てる。 「制服が必要か」というテーマについてその理由と共に英文で書き、発表する。 自分の考えとは異なる意見について反論する英文を書き、発表する。 ALTとJTEとで行われたディベート的活動のデモンストレーションのビデオを見て、どちらが優れた発表か判定する活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明をしたり、活用するワークシートを参考にしたりして、学習の目的や内容を確認し、今後の見通しを立てられるようにする。 理由の書き方を説明し、わからない表現は、「英語基本表現集」を活用するようにする。 全員の意見を聞くために、教室の前後に分かれるように指示し、発表が終わったら座るようにする。 発表が終わり、着席した生徒には、自分と反対の意見を聞いて、その反論の文を書くように助言する。 ALTとJTEとによる簡単なディベートのビデオを見せ、ディベート的活動のイメージを持たせるようにする。 ディベート的活動は互いに自分の主張だけを言い切るのではなく、相手の意見を反論することの重要性を理解できるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ディベート的活動に興味をもち、自分の考えを進んで表現しようとする気持ちをもつことができる。 【関心・意欲・態度】
	2	<ul style="list-style-type: none"> 「中学校は楽しいか」をテーマとし、自分の立場の主張をどのように英語で表現するのか、ペアになり立場を決め、日本語で意見を言い、クラス全体でそれを英語に直していく。 ペアになり、互いの立場から、手紙のやりとりのように紙上で英語によるディベート的活動を行う。（見通し1） 	<ul style="list-style-type: none"> 意見が言い合えるように5分時間を与え、できるだけ多くの意見を書かせるようにする。意見を持ってない生徒には、机間指導でヒントを与えたり、助言したりして、意見をふくらませるようにする。 どのように英文を作ればよいかというポイントを示し、英文の語順や言い回しに慣れるようにALTとJTEと協力し対話の中で日本語を英語にしていく。 ディベートらしい英文に慣れるために、板書されている英文を音読練習させていく。 ディベート的活動では相手の考えに対応しながら自分の考えを主張していくというが大切であることを説明する。 英語でディベート的種を行うとき、スムーズに活動が行われるように机間指導をしながら適切な助言をしていく。 手紙のやりとりのように紙上で意見の交換をワークシート①で行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを理解しながら自分の立場について英語で書く方法を知ることができる。 【知識・理解】 自分の立論と相手の意見に対応した反論がわかりやすい英語で書ける。 【表現】 相手の意見に対応した反論の英文が書ける。 【知識・理解】
応用	3 4	<ul style="list-style-type: none"> 「進学するなら、公立高校か、私立高校か」をテーマにしたがって主張する立場をジャンケンで決める。 自分の立場の意見を表現するディベート的活動を一人一人で行う。 グループ内で個々の英文を持ち寄り、話し合いながらわかりやすい立論の英文を作る。（見通し2） 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見が出るように男女3、4人一組のグループを6組作り、肯定側と否定側に分ける。 グループ全員が、自分の考えを表現できるように「英語基本表現集」を参考にし、ワークシート②に書くようにする。 グループ内で話し合い、自分たちの主張をわかりやすく英文で書き、ワークシート③にまとめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマに対し、自分の立場を主張する英文を作ることによって進んで取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】 主張する根拠を具体例などを上げて書き、グループで、話し合い、わかりやすい英文を作成することができる。【表現】
まとめ	5 6	<ul style="list-style-type: none"> 立場の違うグループと意見を交換し、その意見について、反論するディベート的活動を行う。（見通し3） 	<ul style="list-style-type: none"> グループ全員が、相手の意見を理解し、反論の英文が書けるように「英語基本表現集」を参考にし、ワークシート④に書くようにする。 グループ内で話し合い、相手の主張に対応した説得力のある反論の英文を書き、ワークシート⑤にまとめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立論を理解し、相手の意見に対応した反論が3つ以上書け、グループ内で話し合っ、相手より説得力のある英文を作成することができる。【表現】
	7	<ul style="list-style-type: none"> できあがった立論と反論を肯定側と否定側交互に発表し合う。また、他のグループがどちら側が説得力があるか判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ、原稿を見ないでアクセントやイントネーションに気を付けて発表できるように助言する。 発表グループ以外の生徒に審判をさせ、どちらの側がよかったかを日本語で感想を書かせ、発表グループの活動を評価し合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表者の考えを理解し、そのよさを認め、意見を言うことができる。【理解】

VI 研究の結果と考察

1 導入の過程において、「中学校は楽しいか」というテーマにしたがって、肯定と否定の立場で意見を出し合い、それを英語に直すディベート的活動を行うことは、英語の基本的な語順や英語らしい表現に慣れ、相手の考えに反論しようとすることに興味をもつために有効であったか。

A子は、「中学校は楽しいか」のテーマで肯定の立場になった。日本語で意見を交換する場面や和文英訳の活動では、これまでの授業では、わかっているにもかかわらず発表することがあまりなかったA子が、自分の立場の意見を進んで発言したり、積極的に英語の文を作ろうとする姿が見られた。また、紙上ディベートでは、相手を書いている間、その英文を見つめ、自分の書く順番になると、できるだけ相手の意見に反論する英語を書こうと努力していた。活動後の感想では、「たくさんの新しい単語を覚えた。英文を作ることが楽しかった。」とあり、また、紙上ディベートでは、「自分の考えを英語にするのは難しいけれど、相手の意見に反論することは、おもしろかった。」とあった。

B男は、「中学校は楽しいか」のテーマで肯定の立場になった。紙上ディベートでは、相手の意見に反論することが難しい様子だったので、「反論でなくてもよいから、みんなで考えた英文を参考に自分の立場の意見をどんどん書こう。」と助言をすると英文を書き始め、後半になると相手の意見に対応した英文を作成していた。作成した反論の英文に対し、「きちんと相手の意見に反論しているね。」と言うと、うれしそうな表情をし、さらに英文をつなげようとしていた。活動後、B男は、「日本語を英語に直すのは難しかったけれど、英語の語順に注意すれば書けるような気がした。」と書き、また、紙上ディベートについては、「相手の意見を反論できたのでおもしろかった。」という感想を記述していた。

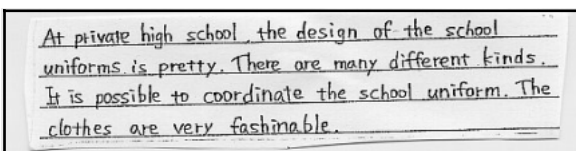
授業後の自己評価で、『中学校は楽しいか』について意見を出し合い、それを英語に直す活動はどうでしたか。」という質問に対し、「楽しかった。難しいけれど、これからも活動を続けたい。」という活動に興味を示していた。

以上により導入の過程において、生徒は、英語の基本的な語順や英語らしい表現に慣れ、相手の考えを受けた上で英語で自分の考えを表現しようとすることに興味をもつために有効であったと考える。

2 応用の過程において、「進学するなら公立高校か、私立高校か」というテーマを取り上げて、個人で自分の立場の主張の英文を書き、それらの英文をグループ内で話し合い、よりよい英文にまとめる活動を取り入れることは、わかりやすい英文を作るために工夫し、自分の考えを伝えようとすることに意欲的になるために有効であったか。

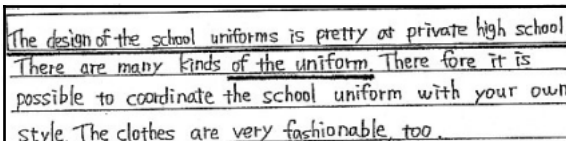
A子は、「私立高校の立場」をとった。四つの根拠はすぐに考えついたが、それを裏付ける文がなかなか思いつかない様子だったので、A子が挙げた根拠の一つである「私立高校は、制服がかわいい」について、「制服がかわいいと、どのようなよいことがあるの。」と質問すると「数種類の制服があり、自分のスタイルやその日の気分に合わせて着られる。」と答え、資料1のような英文を考えた。1番目の根拠とその裏付けの文を書き終わると、2番目から4番目の裏付けの文の作成については、「英語基本表現集」や和英辞典を活用し、すすんで行うことができた。また、グループの中での話し合いでもリーダー

資料1 A子が書いた立論の根拠



At private high school, the design of the school uniforms is pretty. There are many different kinds. It is possible to coordinate the school uniform. The clothes are very fashionable.

資料2 A子の立論の根拠をもとに作成されたグループの立論の根拠



The design of the school uniforms is pretty at private high school. There are many kinds of the uniform. Therefore it is possible to coordinate the school uniform with your own style. The clothes are very fashionable, too.

注：下線部太線は、話し合い活動によってA子が英文を修正、書き加えた部分

となり、同じ意見をまとめたり、見出しを考えたりしていた。資料2は、A子の英文をもとにグループで話し合っ作成した立論の英文の一部である。活動後の感想では、『英語基本表現集』については、知らない単語がわかって、すごく役に立った。また、自分の言いたいことと同じ文があったので助かった。」とあった。また、グループの立論の話し合い活動については、「自分と同じ意見が多かった。でも、同じ考えでも違う言い方だったり、裏付けの文が違ったりしていてためになった。」と記述していた。

B男は、「公立高校の立場」をとった。二つ目の根拠が考えられず、とまどっている様子が見られたので、「地元にある学校のいいところはどこですか。」と尋ねると「通うのが楽。」と答えた。それを根拠にして、その裏付けの文を『高校まで通うのに時間がかからない。だから、時間が有効に使える。』というように書いてみてはどうですか。」と助言すると立論の文を書き始めた。また、英語に直す活動では、苦勞をしている様子が見られたので、作った日本語の文の主語、動詞、目的語の語順をはっきりさせてから、英文に直すように助言した。すると、「英語基本表現集」を参考にしながら資料3のような立論の根拠を作成した。また、グループの中での話し合いでは、自分の英文を大きな声で読み、グループの生徒に伝えようとする意欲を見せた。資料4は、グループの話し合いにより、B男の英文に意見を付け加えて完成した英文の一部である。活動後の感想では、「難しくて、自分の作った日本語がなかなか英語に直せなかった。でも、先生や友達に聞いて何とか英文が書けた。」とあった。

授業後の自己評価では、全体的に、「難しいけれど、自分の言いたいことが英語で書けたことが楽しかった。」「自分の立論に根拠を付けて英語で書けてよかった。」「英語の語順がわかり、英文が書けるようになってきた。」「自分の考えを英語にすることは難しいが勉強になった。」という感想が多く見られた。

以上により、応用の過程において、生徒は、わかりやすい英文を作るために工夫し、自分の考えを伝えようとすることに意欲的になるために有効であったと考える。

3 まとめの過程において、相手の立場の主張を理解したり、予想したりして、個人で反論の英文を書き、それをグループ内で話し合い、説得力のある英文にまとめる活動を取り入れることは、英語でコミュニケーションができることに成就感をもたせ、自分の考えを伝えようとする態度を育成するために有効であったか。

A子は、交換した相手の立論の英文をみて、「校則が厳しくないと、だらけてしまう人が出てくるかもしれない。」と言いながら積極的に反論の英文を書いていた（資料5）。文章も比

資料3 B男が書いた立論の根拠

It is easy to go to school.
There are many public high school near here.
We can go by bicycle or on foot.

資料4 グループの生徒により、
補足されたB男の立論の根拠

It is easy for us to go to the public high school.
There are many public high school near here. We can go
by bicycle or on foot. We don't need to ride on the train.
It doesn't take much time to go to school. And we can save money.

注：下線部太線は、話し合い活動によっ
てB男の英文に書き加えられた部分

資料5 A子の書いた反論の根拠

You said "we think there are not a lot of school rule in public high school.
I don't think that free is the best. Because when we are free, we also have
responsibility. And some people without good responsibility may become a
bad student.

資料6 A子のグループの反論の根拠

You said "we think there are not a lot of school rules in
public high school.
We don't think that free is the best. Because when we are free
we also need responsibility. And some student without good
responsibility may become a bad students.
That's Why private high school with some strict rules is
better than public high school.

較的長く、まとまりのある英文を書くことができた。また、グループでの書く活動でも、「私の文に『だから、私立高校の方がよい』という文を付け加えた方がいいね。」と言いながら、他の生徒の文を参考に反論の英文を完成させていた（資料6）。活動後の感想では、「相手の根拠を反論するのは、楽しい。相手の意見を予想するのも、いろんな発見があっっておもしろかった。」とあった。

B男は、相手の立論が一読しただけでは理解できない様子で「英語基本表現集」や和英辞典を使いながら読み進めていた。しかし、立論の時と比べると意欲的に反論の英文を書いていた（資料7）。活動後の感想では、「英文にするのは、やっぱり難しかった。でも、英語の語順に注意して書くと自分の意見が書けると思う。反論の文を考えることは、立論の時よりもおもしろかった。」とあった。また、グループの話し合いの活動では、他の生徒が考えた文を加えながら反論の英文を作成していた（資料8）。活動後の感想では、「立論の時よりもグループの人の英文がわかった。英語をたくさん書いた。勉強になった。」とあった。

授業後の自己評価では、全体的に、「はじめは、立論や反論を英文で書くななんて難しいと思ったけれど、やってみると楽しいし、英語を書くことは思ったより難しくないとわかった。これからもどんどん英語を書きたい。」というような感想を記述する生徒が多かった。また、生徒の英文を見ると、接続詞で文を続けたり、分詞を使ってより記述内容を明確にしたりと表現力の高い英文を書く生徒が多くなった。グループ活動では、どのグループも立論の時と同様に話し合いが活発に行われ、生徒の表情も明るかった。

以上により、まとめの過程において、生徒に、英語でコミュニケーションすることの成就感を持たせ、自分の考えを伝えようとする態度を育成することに有効であったと考える。

資料7 B男が書いた反論の根拠

You said " We can try entrance examination some times.
But I don't agree. We need a lot of money to try private
high school entrance examination. We need 15,000 yen
each time. That's big problem.

資料8 グループで修正されたB男の反論の根拠

You said " we can try entrance examination several times
You may be right. But we don't agree. Because we need much
money to try them. For example, a private high school
entrance examination fee is 15,000 yen. When we try
four high school, that'll be 60,000 yen.
That's a big problem!! Don't you think so?

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

- 生徒は、テーマについて立論や反論の英文を作成するディベート的活動を通して、機械的な和文英訳ではなく、自分の考えをまとめた英文で書くことに意欲的に取り組んだ。立論から反論の英文まで4段階の英文を書いたが、英語を書く力は確実に伸びたと感じる。この点から、が見受けられた。自分の考えをできるだけ英語で表現できるようにするために、語彙力を増やし、幅広い表現方法を日常の授業で身にディベート的活動を通して、英語で自分の考えを表現しようとする意欲が高まったと考える。
- 生徒は本活動に積極的に取り組むことができたが、立論や反論に対する考えが高まるにつれ、自分の主張が現段階での英語の表現力を超える内容になってしまい、英訳するのががある。また、複雑な日本語をいかに自分の英語力にあった簡易な日本語で表現するかという技術の習得も必要であると感じた。

- 〈参考文献〉・ 中島 洋一著 「英語のディベート授業」 明治図書(1999)
 ・ 松本 茂 著 「生徒を変えるコミュニケーション活動」 教育出版(1999)
 ・ 松本 茂 著 「考える力を育てるディベート学習」 明治図書(1998)